

令和3年第7回筑紫野市教育委員会定例会

○日 時

令和3年7月2日（金）午後2時59分から午後3時50分

○場 所

筑紫野市役所 504会議室

○出席委員（5名）

教育長	上野 二三夫	教育委員	潮見 眞千子
教育委員	田代 邦夫	教育委員	牛川 由美
教育委員	久原 寛		

○欠席委員（0名）

○出席説明員（7名）

教育政策課長	吉開 和子	学校教育課長	嵯峨 栄二
学校給食課長	倉掛 伸夫	文化財課長	小鹿野 亮
文化・スポーツ振興課長	益永 晃	指導主事	村岡 陽子
社会教育主事	田中 翔		

○出席事務局職員（1名）

教育政策課 庶務担当係長	葉山 順子
-----------------	-------

○議事日程

1. 教育委員会会議録の承認について
令和3年第6回筑紫野市教育委員会会議録（令和3年6月3日開催）
2. 教育長の報告について（別紙）
3. 議案第15号 令和3年度学校運営協議会委員の委嘱について

○部課長の報告について

○その他

○次回の日程 【定例会】令和3年7月29日（木）午後2時00分 505会議室

会議録

○教育長：定刻となりましたので、ただいまから令和3年第7回筑紫野市教育委員会定例会を開会いたします。では、議事日程の順序に従い会議を進めます。なお、発言は議長の許可を得た後にお願いをいたします。

日程第1、教育委員会会議録の承認の件

○教育長：令和3年6月3日開催の令和3年第6回筑紫野市教育委員会会議録について承認することでご異議はありませんか。

○（特になし）

○教育長：ご異議なしと認めます。よって、本件については承認されました。

日程第2、教育長の報告の件

○教育長：

- ・市校長会
 - ・予防対策を継続・強化及び児童生徒の健康管理について
 - ・中学校の体育会について
 - ・中体連関係について
 - ・小学校が二次避難所になった場合の設営訓練について
 - ・令和4年度管理職任用候補者選考試験について
- ・令和3年度管内教育担当課長会議報告
 - ・研修会のオンライン化に伴う留意事項について
 - ・福岡地区子どもの読書活動推進連絡会議設置要綱について

○潮見教育委員：お尋ねですが、文言ですが、「ビブリオバトル」って何でしょうか。「子どもの読書習慣形成実施要領」にあるのですが、初めて聞きました。

○文化・スポーツ振興課長：「ビブリオバトル」というのは、例えば自分が紹介したい本を自分の言葉で表現し合うというものです。自分がおすすめの、こういうところがいいというのを自分の表現で発することをお互いにし合うというのが「ビブリオバトル」ということになっております。

○潮見教育委員：同じ本をということですか。それとも、それぞれの本ですか。

○文化・スポーツ振興課長：それぞれの本になります。「僕はこの本をお勧めします。こういう内容で、面白いです。」という中身を自分の言葉で表現するというもので、最後にみんなが一番読みたくなった本を多数決で決定します。

○潮見教育委員：発表など表現の練習みたいなものですか。分かりました。ありがとうございました。

○教育長：いい取組です。自分の言葉で、自分の気に入った本を紹介する。

○文化・スポーツ振興課長：そうです。自分が本を紹介するということは、自分が読んで、どこがよかったのかということをしかりと把握してないと、「楽しかった。」とかそんなのではなくて、しかりとこういうところがよかったということを自分がお勧めするという力を、もちろん読んでないと分からないと思いますので。

○教育長：分かりました。こういう言葉は横に括弧書きして、日本語で「こういうことです」と理由をつけてもらおうとありがたいです。

○潮見教育委員：今はもう普通になっているかもしれないです。私たちが知らないだけで。

○田代教育委員：この言葉は使われています。

○潮見教育委員：そうですか。ありがとうございました。

○久原教育委員：事業費が出ています。これと同じような事業を筑紫野市でもされていると思いますが、この補助事業について、これは県の補助事業だと思えますが、受けられる気がありますか。

○文化・スポーツ振興課長：コロナ禍で最近できなかったのですが、夏休みには、今までであれば「読書リーダースクール」ということで、図書館で小学校20名ほど、中学校10名ぐらいの児童・生徒さんを募集して、こちらに書いています、「ビブリオバトル」もそうですが、図書館に飾ってあるポップ作りとかを行い、最終的にはそれを小学校・中学校の図書館に還元して、12月には発表を行うということをやっておりました。

こちらの支援事業も少し形を変えてまた行うと聞いておりますが、今年の関係はまだ詳しくは分かりませんが、こちらの同様の事業は継続してやっております。

○久原教育委員：市の事業と、県の補助が14万2,000円。少し少額だとは思いますが、それについては考慮に入れて、計画に今までの分を乗せる可能性もあるということですか。

○文化・スポーツ振興課長：そうです、そのとおりです。

○教育長：これで私のほうからの報告を終わりたいと思います。ただいまの報告について、質疑はありませんか。

○（特になし）

○教育長：それでは、進行いたします。

日程第3、議案第15号、令和3年度学校運営協議会委員の委嘱についての件

○学校教育課長：（提案理由の説明）

○久原教育委員：コミュニティ・スクールについては研修会等も行っていただいて、そのときにもお話をさせていただいたのですが、運営協議会としての名簿が出ているとおおり、こういう形でそれぞれコミュニティ・スクールが進んでいくのだらうと思いますが、結局、コミュニティ・スクールとしての地域学校協働活動は行われていますが、地域学校協働本部ができていないというのが筑紫野市の大きな部分ではないかと思っています。

そこで、この委員さんの名簿を全部見せてもらいましたが、全部にコミュニティ運営協議会の役員さんなり、いろんな関わりの方たちが入っていると思います。ですから、そういう人たちを中心に、私は協働本部をこのコミュニティに置いてもらって、地域と学校が協力できる、そして同じ視点で子どもたちを育てるというものをぜひとも培っていただけたらという思いがあります。

その一つとして、多分、柴田課長のときに1回、コミュニティ・スクール研修会が行われて、その後行われてないと思います。ですから、1回、それぞれのコミュニティ・スクールの現状の交換会でもいいし、これからの方向性なりも含めた部分で、せつかくこういう形で新しく発足しますので、できたらそういうことを考えてもらえないかと思っています。

○教育長：ありがとうございます。その点の方向性とか、どうですか。

○学校教育課長：地域学校協働活動につきましては、学校教育課、生涯学習課、コミュニティ推進課で徐々に進めていきたいと思っておりますので、その検討の中で、またそういったお話も参考にさせていただきながら進めていきたいと思っております。

○田代教育委員：久原委員の説明で少しお尋ねしたいのですが、地域学校協働本部とコミュニティ運営協議会は果たす役割が違うのですか。どう違って、どう同じで、どう違うのですか。すみません、そのレベルから分からないです。

○久原教育委員：みんなが活動できるような地域のコミュニティを進める上でいろんな施策をするのがコミュニティ運営協議会です。それで、コミュニティ・スクールは、子どもたちを地域と学校でどう育てるかということであって、これもコミュニティ運営協議会の一つではあると思います。

コミュニティ運営協議会は、そういう教育の部分だけではなくて、福祉とか環境とかいろいろな部分を含めた形で、地域と学校も含めて全体を運営していくという部分をコミュニティ運営協議会が受け持っていますので、その中の教育の部分であるコミュニティ・スクール、要するに地域と学校が協力して子どもをどう育てるかという部分のことだと思うので、コミュニティ運営協議会が持っているいろんな部門の一つに、地域学校協働の本部という形で取り組んだほうがいいのではないかと私は思っています。

○潮見教育委員：続けて質問させていただいていいですか。

○教育長：どうぞ。

○潮見教育委員：では、地域のコミュニティ運営協議会も、一つの集まりがあります。その中に学校のコミュニティ・スクールの運営協議会の本部を置く、それとはまた別枠で地域コミュニティの中に置くということですか。どちらですか。

○久原教育委員：その考え方ですが、今はこの学校運営協議会を学校ごとに置いてあると思います。これが一つのパターンです。コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を置くということになっております。そして、地域学校協働活動をしていながら、子どもを育てていこうと、その本部を置いてあるところもあります。その本部をどこに置くかという問題が今、全然確定できてないのです。ですから、コミュニティ運営協議会に置いたらいいと私は思っています。

○潮見教育委員：筑紫野中学校は学校の中にあります。

○久原教育委員：筑紫野中学校だけは、そういう形で、御笠コミュニティとの関係であると思います。まだまだ具体的な部分で進めていかないといけない部分があると思います。

私は、区長という立場で筑紫野南コミュニティ運営協議会に先日出たのですが、そのときに提案したのは、要するにコミュニティ運営協議会がいろんな部分で活動していつているけども、例えば人材です。人材の育成が一番中心になるだろうと思います。そうしたときに、人材の育成をする段階で、今、筑紫南コミュニティでは、サポートセンターというのをつくってサポーターをいろいろお世話願っているのですが、そのほかに学校がコミュニティ・スクールで、コミュニティ・スクール以前からあったのですが、読み聞かせとか丸つけボランティアとか、そういう学校独自のボランティアの方たちの名簿や連絡簿も持っています。

それからそのほかに、筑紫南コミュニティでは、花植えをしてくれるボランティア、学校も関わっているのですが、今ポーチュラカを地域と学校で一緒につくっています。そういう人たちとか、あるいは、「助け合い南」といって、高齢者の方たちが地域で困り事があつたとき、草取りとか電球の取替えとか、そういうのをお願いできるような人を活動ボランティアとして、今、取り組んでいます。

それを部会ごとにはしているのですが、一本化して、コミュニティの中でそういうものをできる部署をつくってほしいとこの前お話をしたのですが、そういう形で、学校がもう本当に子どもたちのために、教育活動も含めて、手助けをしてほしいときにさっとできるような体制を人材として持っておけば、それがコミュニティ・スクールとの関係で非常にうまくいってくだらうと思います。

そういうことがやはり、子どもたちも助かるし、手伝う人たちも意識の問題で、子どもを育てていく。そして、高齢者になったときに、子どもたちが育ってくれて地域を守ってくれるということにつながっていくので、両方関わるということになれば、コミュニティ運営協議会の中にそ

ういう組織があったら非常にいいということでお話をしたのですが、そういうところを考えられるような組織的なものになっていけばいいと思っていますところでもあります。

○潮見教育委員：今年のこの名簿を見せていただいたときに、地域の協議会から入っていらっしゃる方が結構増えているような感想を持ちまして、その辺が、学校の運営協議会のほうの意識が少し変わってきたのかと思ったところではあるのですが、その辺が今、久原委員がおっしゃったように、一歩進んでまたできればいいです。何かしやすくなるかもしれないです。

○久原教育委員：せっかく皆さんコミュニティ運営協議会から入っていらっしゃるの、やるべきことをこのコミュニティ・スクールの中に生かしてほしいと思います。

多分、国の今度のコミュニティ・スクールの新しい答申の中にコミュニティとの関係が出てきているのではないかと思います。

○教育長：そうですね。嵯峨課長、どうですか、今、いろいろ委員のほうからお話が出ましたけど、この構成メンバーもやっぱり昨年から比べると、地域の方が増えている感がありますか。

○学校教育課長：そこまで確認はできておりませんが、先ほども申したように、今、生涯学習課を中心に、地域協働学校活動について今から進めていこうという取組をコミュニティ推進課と学校教育課で取り組もうとしておりますので、その中で今、久原委員のおっしゃったような形が実現できていけばという形になると思います。

筑紫野市版のどういう形をつくっていくかというのが今から進めていくところになりますので、学校があって協働本部があってボランティアの方で、コーディネーターというのをつくって、今、学校の先生たちがいろいろ苦勞されているところを、本部をつくって、そこが連携協働の中心的な役割を担っていただくという形で進めていければと思っています。

○久原教育委員：もう一つ、各学校に学校運営協議会があるのですが、宗像市が今取り組んでいるのが、小中連携した学校運営協議会をつくっていると思います。というのが、小学校と中学校両方に区長さんたちが入っているということで、2回も出ないといけないわけです。それを一本化しておけば、1回で済む。ただし、具体的な部分で、小学校、中学校独自のいろんな課題もあるだろうから、地域一緒に小中連携とか、そういう部分はそれぞれできるだろうし、ですから、そういうようなこともやっているところがあるので、できればそこら辺も少し踏まえていただければいいかと思っています。

○教育長：先進地の視察ではないけども、いろいろ情報を集めながら、少し筑紫野市も取り入れるものは取り入れてやれたらいいと思います。

それでは、今それぞれの委員のほうから御質問等ありました。それから、コミュニティ・スクールの現状をお互いに情報交換したらどうかという話もありました。それもひとつ検討してもらっていいですか。

○学校教育課長：報告書等が出来上がりましたら、それぞれのコミュニティに、「ああ、こういった取り組みをしているコミュニティ・スクールがある」とか、学校運営協議会にお渡しするという形になります。昨年度、コロナの関係とかで協議会自体が書面開催とかという形になっておりますので、その辺が少し懸念事項ではありますけれども、取組状況について、先進的なものがあれば御紹介していくという形を取っております。

○教育長：いいですか。それでは、本件について他に質疑はありませんか。

○（特になし）

○教育長：質疑を打ち切ります。本件を承認することにご異議はありませんか。

○（特になし）

○教育長：ご異議なしと認めます。よって本件については、原案のとおり承認をいただきました。

それでは、以上で本日の予定しております議事は終了いたしました。続きまして、各課等からの報告に移りたいと思います。

○教育政策課長の報告

・同和問題講演会の中止について

○学校教育課長の報告

・中学校の体育会について

○学校給食課長の報告

・7月の献立表について

○文化・スポーツ振興課長の報告

・緊急事態宣言解除に伴う文化スポーツ施設の開館等について

○文化財課長の報告

・五郎山古墳館開館20周年事業について

○久原教育委員：筑紫南コミュニティ運営協議会に次世代育成部会がありますが、ここに五郎山古墳のプロジェクトというのを、成人式が終わった後に筑紫野南中学校で成人式の会をしている若い人たちのメンバーが中心になって今活動していると思いますが、そこら辺と相談してもらって、今後何かできないかということも考えたら、五郎山古墳の若い人たちのいろんな活用方法など今模索していると思いますので、次世代育成部会の部会長にお話ししてもらったらいいかと思います。できたらこういうふうな形で今進んでいますということと併せて話してもらえるといいかと思っています。

○文化財課長：今の件につきましては私どもも承知はしておりまして、実は先日、表敬というか、訪問をいただいたところでございます。まだ地域のほうも、こういった形で何をということがお

決まりではございませんでしたので、その辺りは博物館のほうとしても、資料提供とか学習を、より古墳のことを知っていただくために、協力はやぶさかではございませんので、そういったことは申し上げたところでございます。

今後、接点を、少し情報の共有とかあたりも、委員の御指摘のとおり努力をしていくように心がけてまいりたいと考えております。

○潮見教育委員：できれば、南コミセンが近くというところでそういう活動がしやすいというのはあると思いますが、ほかのコミセンで地域のコミュニティ、それこそコミュニティ運営協議会なんかにもそういうことを、少し足を運ばれて、こういうことに取り組んでいますという説明をされても皆さんの意識が向くのでないかと思いました。

案外と知らない方が、二日市近辺の方は本当遠いから、御存じない方が多いのでないかと思ったりしましたので、できればお願いいたします。

○教育長：よろしいでしょうか。やはり広めていただくというのも大事なことでしょう。

○社会教育主事の報告

- ・社会教育委員の会について

○教育長：それでは、続きまして、その他に移りたいと思います。教育委員の皆様、また、課長さんたちのほうからありましたら申し出てください。

○（特になし）

○教育長：これもちまして令和3年度第7回筑紫野市教育委員会定例会を閉会といたします。